

第5学年 社会科 学習指導案

日時

場所

授業者

1 単元名 「米づくりのさかんな地域」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

目標

(1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解するとともに，地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

内容

(2) 我が国の農業や水産業における食糧生産について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア(イ) 食糧生産に関わる人々は，生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして，良質な食料を消費地に届けるなど，食料生産を支えていることを理解すること。

イ(イ) 生産の工程，人々の協力関係，技術の向上，輸送，価格や費用などに着目して，食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え，その働きを考え，表現すること。

本単元では，我が国の農業について統計資料や写真などの各種資料を使って調べることで，米の生産に関わる人々が自然条件を生かしたり，生産の工程や輸送方法を工夫したりして，安全でおいしい米を消費者に届けるために努力していることを理解したり，農業が抱える課題を捉え，持続可能な農業の在り方について考えられるようになったりすることをねらいとしている。

揖斐川町には，木曽三川の1つである揖斐川が流れており，水田を利用した米づくりや広い土地，傾斜，日当たりを活用した茶畑での茶の栽培など，豊かな水資源を生かした産業が活発に行われている。児童は自分たちの住む町でこれらの産業が営まれていることはイメージできるが，生産物がどのような過程を経て生産・輸送されているのか，生産に関わる人々がどのような工夫をしているのかまでは，実際の生活の中で考える機会は少ない。そこで，自分たちの地域と結び付けて米づくりの方法や工夫を考えたり，昨年の「きょう土のはってんにつくす」で行った飛鳥川用水の見学や総合的な学習での田植え体験とつなげて考えたりする学習活動を通して，米づくりのさかんな地域の人々がどのように米づくりを行っているのか，どのような工夫をして米づくりの生産性を高めているのかについて，理解を深めさせたい。

(2) 児童の実態

多くの児童が身の回りの社会的事象に関心をもち，進んで学ぼうとする意欲をもっている。資料から気付いたことや分かることを見つけてノートに様々な視点から書きだし，その事実から考えを広げ，理解を深めようとする児童が多い。その一方で，仲間と自分の考えを比較し，仲間の考えと自分の考えを関連付けて新たな気づきを得る力に弱さが見られる。そこでノートの取り方を工夫し，自分の考えと仲間の考えが並ぶように書くことで，比較したり関連付けたりして考えを広げる力を全員が身に付けられるようにしていきたい。

3 単元の指導計画

時	ねらい	主な学習活動	評価規準
1	米づくりの盛んな地域の地形や気候の特色を資料から読み取る活動を通して、米づくりと自然条件には深い関わりがあることに気づくことができる。	○資料から、庄内平野の景観や地形、気候についてまとめる。 ○資料から読み取ったことをもとに、米づくりに適した自然条件について考える。	資料から、米づくりの盛んな地域の地形や気候の特色を読み取ることができる。 【知識・技能】
2	普段家庭で食べている米の生産地や米の生産量が多い都道府県について調べる活動を通して、米づくりへの関心を高め、学習課題を設定することができる。	○家庭の米の袋のパッケージを使って産地調べを行う。 ○地図帳の統計資料を用いて、米づくりが盛んに行われている都道府県について調べる。 ○調べて得た情報をもとに、疑問に思ったことやこれからの学習で調べたいと思ったことを出し合い、学習課題を設定する。	米の生産地や米づくりの過程に関心をもち、知りたいことや疑問を出すことができる。 【学びに向かう力・人間性】
3	米づくりの工程を資料から読み取る活動を通して、自然条件や時期に着目して米づくりを行う農家の工夫や努力に気づくことができる。	○総合的な学習の時間に行った田植えの体験活動とつなげて、米づくりの作業のイメージをもつ。 ○農作業暦や農作業の動画を見ながら、米づくりの過程について調べる。	農作業暦や動画などの資料から、農家が稲の成長や気候の変化に合わせて米づくりを行っていることに気づくことができる。 【思考・判断・表現】
4 【本時】	資料から、昔と現在の米づくりの様子を比較する活動を通して、生産性を高めるための米づくりの工夫について理解することができる。	○昔と現在の「田の様子や」「米づくりの様子」を比較し、その変化について考える。 ○昨年に行った飛鳥川用水の見学とつなげ、揖斐川町でも同じように米づくりをするための努力があったことを理解する。	「耕地整理」や「機械化」、 「用水路の発展」を示す資料と「農家の労働時間」を示す資料を関連付け、生産性を高めるための米づくりの工夫について理解することができる。 【思考・判断・表現】
5	農業協同組合（JA）の取り組みや水田農業試験場での品種改良について調べる活動を通して、安全でおいしい米づくりのために米づくり農家を支えている人々がいることに気づくことができる。	○資料から、農業協同組合（JA）や水田農業試験場での取り組みについて調べたものをまとめ、グループで交流する。	農業協同組合（JA）の営業指導や宣伝活動、農業試験場で行われている品種改良などが農家の米づくりを支えていることが理解できる。 【思考・判断・表現】

6	庄内平野の米の流通経路を調べる活動を通して、生産された米が工夫された輸送方法によって、消費者に届けられていることを理解することができる。	○「カントリーエレベーター」の写真から、収穫された米の行き先について知る。 ○米の流通経路や出荷先を調べる。 ○新たな米の流通の仕組みについて調べる。	米が食卓に届くまでの過程や庄内平野の米の出荷先が大都市であることを捉え、おいしい米を多くの消費者に届ける人々の工夫や努力に気づくことができる。 【思考・判断・表現】
7	農家が直面する課題についてグラフ資料や写真から読み取る活動を通して、その解決のために農家がどのような取り組みを行っているのかを理解することができる。	○資料から、米の生産量や消費量が落ちてきていることや農業従事者の高齢化や減少などの課題をつかむ。 ○課題を解決するために、どのような取り組みが行われているか、また自分たちにどのようなことができるかを考える。	資料から、農家が直面する課題について適切に読み取り、その課題を解決するための取り組みや方法について考えることができる。 【知識・技能】
8	米づくりに関わる人々がどのような工夫をして米を作っているかをまとめることができる。	○学習の中で出てきたキーワードを分類し、米づくりの学習について振り返る。 ○第1時で立てた学習課題について、これまでに学習したことを使って自分の言葉でまとめる。	米づくりに関わる人々の工夫について、自分の言葉でまとめることができる。 【学びに向かう力・人間性】

4 本時のねらい

資料から、昔と現在の米づくりの様子を比較する活動を通して、生産性を高めるための米づくりの工夫について理解することができる。

5 本時の展開（4/8）

過程	学 習 活 動	教師の指導・援助（・） 評価（☆）
み つ け る	1 資料①②を見て、米づくりの労働時間の変化と米の生産量の変化を捉える。 ・米づくりにかかる時間は大きく減ってきている。 ・それでも、米の生産量は増えている。 米の生産性を高めるためにどのような工夫をしてきたのだろう。	*資料①「米づくりにかかる時間の変化」 *資料②「米の生産量の変化」 ・少しずつグラフを見せることで、興味をもてるようにする。 ・課題に対する予想を立て、本時の見通しをもつ。 ・「生産性を高める」という言葉の意味を確認する。
考 え る	2 資料③④⑤から、昔（約60年前）と現在の米づくりの様子を比較する。 ・いくつかの田んぼを1つにまとめている。 ・田んぼが広く、縦長になった。 → 機械が入りやすく、効率がよくなった。 ・昔は田おこしから稲刈りまで、動物の力を借りたり手作業で行ったりしている。 ・今はすべて機械で、1人で行っている。 → 少ない人数・短い時間で、多くの仕事ができる。 ・水路をつくって、全ての田んぼの水を調整できるようになった。 → 必要な量の水が田んぼに入ることで、米が育ちやすい。	*資料③「昔と現在の田んぼの様子」 *資料④「昔と現在の米づくりの様子」 *資料⑤「用水路と排水路のしくみ」 ・個人追究では、記述しやすく、後から見返しやすいようにノートを横向きに使う。また、自分の考えに付け足して、「友マーク」も残す。 ・個人追究では、事実とその事実から分かる自分の考えの2種類を書けるよう机間指導する。
深 め る	3 生産性を高める工夫をすることで、どんなよいことがあるか考える。	*資料⑥「学校周りの田んぼの用水路の写真」 *資料⑦「学校周りの耕地整理前後の写真」 ・昨年の学習とつなげ、米の生産性を高めるために耕地整理と用水路や排水路の整備が自分たちの住む地域でも行われていることを確認する。
確 か め る	4 揖斐川町の昔と現在の写真を見せ、自分たちの住む地域でも同じように工夫されていることを知る。 ・大和小学校の周りでも、耕地整理が行われた。 ・耕地整理をしたことで、大きな機械が入れるようになったり、用水路を作ったりできた。 ・水の量が天気関係なく調整されている。 5 学習したことをまとめる。 米の生産性を高めるために、耕地整理をし、機械を使うようになった。また、用水路や排水路を整備し、水の量を調節できるようにした。	【評価規準】（思・判・表） ・耕地整理や機械化、用水路の発展を示す資料と農家の労働時間を示す資料を関連づけ、生産性を高める工夫に気づくことができる。 【評価場面・評価方法】 ○ノートへの記述、発言内容